

八戸市に於いて巻網船三ヶ統と沖合底曳網船一隻を経営する会社の福島と申します。

最初に父が始めた仕事のことからお話ししたいと思いません。

父は昭和二十五年四月に小型底曳網を立ち上げたことが事業の始まりです。

その後、事業は順調に推移し、昭和四十年巻網漁業に着手した時には沖合底曳網船は七隻所有していました。

そして翌年には法人化し、社名を株式会社福島漁業といたしました。当時私は大学を卒業し、父の手伝いを始めておりました。会社設立と同時に常務取締役就任、始めたばかりの巻網漁業勉強の為、東北地区や九州地区に出かけることが多くなりました。特に九州地区では、網船が一隻、探索船二隻、運搬船二隻と、北部海区網船二隻、探索船二隻、運搬船二隻六十五名位で一ヶ統を編成しておりました。沖底船一隻十三名位の仕事をずっと見てきた私としては、将来人手不足になったらと思う気持ちがありました。

そして数年後の昭和四十五年六月に水産国の先進地と言われる北欧ノルウェーに、視察目的で参加させていただきました。当時の日本の漁業は世界一番だと聞かされておりました。ところが目にしたノルウェーの巻網船は大型（約八〇〇トン位）一隻で乗組員もわずか十三名位で操業し漁獲物を船内で急速冷凍したり、魚種ごとに漁獲量を決め管理したり、日本では考えられない操業状況に大

変驚いたものでした。

なぜなら当時は、「親の仇と魚は見たら取れ」の諺が当たり前の日本でしたから。

帰国してから、早速若手の漁業者仲間と将来の自分達の方角について語り合う為、「巻網二十一世紀の会」と言う名称の組織を立ち上げました。何人かの仲間と再度ノルウェーに出掛け現地で乗船させて頂いたり、加工場を見学させてもらったり、いろいろ勉強させてもらいました。各個々の会社で立ち上げるには問題が多く、組織を作って取り組むべしとなり、北部まき網連合会に相談して、組織団体のそれぞれの県（青森、千葉）出資していただき「北まき株式会社」を設立して、昭和六十三年「北勝丸」単船一艘巻が建造されるに至りました。

ところが実際に運行してみると、ノルウェーのフィヨルドを中心とする漁業と広い太平洋で操業するのでは大きな違いもあり、中々成功に結びつくまでには程遠く、苦勞の数年でしたが、探索能力を兼ね備えた運搬船と二隻体制にする事で成功することが出来ました。

その後国が支援する漁船漁業構造改革推進事業が確立し、第一号に認定されました。

図1 大中型まき網漁業の操業区域別許認可隻数（9海区）—1987年公示

